

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 11

首都高名所案内
京橋
 クラシックビル
 観光
 コラムニスト
泉 麻人

東京駅の建物がオリジナルのスタイルに復原された。とりわけドームの内側の装飾が素晴らしい。天井のレリーフを見上げてケータイ（カメラ付）を差し向けている人が何人もいて、ちよつとした美術館のようなムードが漂っている。再開したステーションホテルもちよつと覗いてみたが、所々に魅力的なレストランやバーが置かれている。2階にドームを見渡すピロティが設けられ、その上の3階には

客室が配置されている。実は僕、改装前に一度、このドーム側の部屋に宿泊したことがある。窓下に垣間見える改札口の光景をぼんやり眺めたことが回想される。

東京駅を見物した足で京橋方面へと向かった。八重洲側に出てちよつと行くと、もう京橋。中央通りに入ると、まずいつもチェックするのが明治屋のビル。昭和8年建築という黄土色の四角いビルは、ただクラシックなだけで

なく、外壁の細かい縁取りや飾りなどが実に凝っている。用もないのにフラットと入りたくなる。（ま、1階は売店なので……）代表的なビルの一つである。

このあたりではもう一つ、鍛冶橋通りにあつた「片倉キャロン（工業）」のビルが好きだったのだが、これは惜しくも最新ビルに建て替わってしまった。が、その先の京橋交差点の南西角になかなか面白いビルが出現している。質感こそイマドキのハイテクビルだが、テッペンにレトロ調のドーム屋根を付けた望楼らしきものが見える。

「来年の3月には結婚式場やレストランがオープンするって話です。ぜひまたいらしてください」

ここもまた話題のスポットになるのだろう。中央通りを行くと、首都高の下に往年の京橋の橋柱がぼつんと保存されている。いまでもその脇のホテル西洋銀座のビル内に健在の映画館「銀座テアトルシネマ」は、かつて「スーパーシネラマ」と呼ばれた大スクリーンで鳴らした所。「スターウオーズ」はわざわざこの劇場で堪能したものだ。

玄関口の表札の「第一相互館」の名義を見て、ピンと来た。そうか、これは昔から京橋のランドマークとして知られた第一生命保険のオフィスビルなのだ。東京駅と同じ辰野金吾設計の初代ビルが建ったのは大正10年、昭和46年にシンプルな直方形の2代目に改装されたが、この3代目において再び特徴的な望楼を復活させよう……ということらしい。

可能ならば、あの頂きの望楼らしき所まで昇ってみたい。エレベーター口で対面した初老の社員に尋ねてみたところ、残念ながら上階の方はまだ完成

「来年の3月には結婚式場やレストランがオープンするって話です。ぜひまたいらしてください」

ここもまた話題のスポットになるのだろう。中央通りを行くと、首都高の下に往年の京橋の橋柱がぼつんと保存されている。いまでもその脇のホテル西洋銀座のビル内に健在の映画館「銀座テアトルシネマ」は、かつて「スーパーシネラマ」と呼ばれた大スクリーンで鳴らした所。「スターウオーズ」はわざわざこの劇場で堪能したものだ。

銀座4丁目の交差点まで歩いてきて、京橋方向をふり返ったとき、ハッと見えた。京橋の所で道筋が緩やかに曲がって、前面に高いビルがないため、ちよつとまっすぐ正面に収まるのだ。和光（服部時計店）の時計塔を左に置いたこのショット。戦前の銀座写真の構図を思わせる。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『箱根駅伝を歩く』（平凡社）がある。

2 コラム RAMPWAY
 泉 麻人

特集 **東京今昔**

5 **情報社会の高速道路**
 東京大学 名誉教授
 月尾嘉男

8 **強い東京をつくる**
 日本大学 理工学部 土木工学科 教授
 岸井隆幸

12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子

14 CHALLENGE
 メンテナンスの進化

15 データ物語
 成長する首都高ネットワーク

16 **首都高HEADLINE**

18 business essay
人はなぜ遠くを目指すのでしょうか？
 鈴鹿短期大学 学長
 佐治晴夫

20 つくる人まもる人
 首都高道路株式会社
 磯 和恵

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito